

第 38 回歴史地震研究会（苫小牧大会）のお知らせ（第 2 報）

第 38 回歴史地震研究会（苫小牧大会）のプログラムをお送りします。研究会参加、講演要旨送付、公開講演会・巡検参加申し込みの締め切りは 7 月 31 日（土） です。申込先・送付先は、7. 研究会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先にあります。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束状況により、大会はオンラインで開催することになるかもしれません。7 月 20 日（火）までに決定しホームページでお知らせします。オンライン開催の場合、巡検は実施しません。大会参加費も無料とします。また、講演を申し込まれた方につきましては、オンライン開催でもご発表いただけるかどうかを確認いたします。講演を取りやめる方は、講演要旨を送付していただく必要はありません。

1. 場所

苫小牧市文化交流センター アイビー・プラザ
苫小牧市本町 1 丁目 6 番 1 号
<https://ivyplaza.roukyou.gr.jp/>

2. 日程および参加費

2021 年 9 月 2 日（木）～5 日（日）の 4 日間

2 日 13:30～17:30：研究会

3 日 9:15～17:30：研究会・総会

4 日 9:15～11:45：研究会, 14:00～16:00：公開講演会

5 日 巡検

- ・公開講演会は無料です（会員，非会員とも）。開場は 13 時 30 分です。
- ・研究発表会には大会参加費として 会員 2,000 円，非会員 4,000 円（いずれも課税対象外）が必要です。
- ・研究発表会の会場は多目的ホール（初日は 13 時，2～3 日目は 9 時に開場・受付開始）です。
- ・懇親会は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から本大会では開催しません。
- ・巡検の参加費は 6,000 円程度の予定です（昼食・保険含）。
- ・例年、公開講演会、研究発表会については参加申し込みを不要としておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から事前の参加申し込みをお願いします。参加申し込みは 7 月 31 日（土） まで。申込先は 7. 研究会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先をご参照ください。

3. 講演要旨について

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ（厳守）、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Word

ファイル) を書き換える形で原稿を作成のうえ、原則として Word ファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月31日(土)必着といたします。原稿の送付先は、7. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先をご参照ください。

※要旨の標準フォーマット <https://www.histeq.jp/doc/AbstractFormat.doc>

4. 発表について

口頭発表で使用する PC は Windows1 台, Mac1 台をこちらで準備いたします。当日は事前にファイルを集約する予定です。ご発表前の休憩時間までに USB メモリ等でご提出ください。各自でご用意いただいた PC を接続することもできます。

ポスター発表で使用するボードの貼付面のサイズは、高さ 180 cm×幅 120 cmです。これに収まるよう作成してください。縦長ですのでご注意ください。

5. 公開講演会

表題：北海道胆振東部地震から3年～歴史と地層から古地震をさぐる～

講演：

- 鏡味洋史 氏（北海道大学 名誉教授）
『災害史料からさぐる北海道の歴史地震』
- 乾 哲也 氏（厚真町教育委員会 学芸員）
『考古遺跡に見られるアイヌ文化期の地震痕跡』
- 西村裕一 氏（北海道大学 准教授）
『胆振地方太平洋岸の津波痕跡と海溝型地震の履歴』

参加費等：入場無料，事前申し込み要，先着順，定員 200 名

会員の参加申し込みは 7月31日(土)まで。申込先は 7. 研究会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

感染防止対策のため、今回は一般の方は苫小牧市に申し込むことになります。詳細は後日ホームページ (<https://www.histeq.jp/kenkyukai.html>) などをご確認頂けるようにいたします。

6. 巡検

行程：

8時 苫小牧駅出発 -> 勇武津資料館 -> 17世紀の津波堆積物 -> 胆振東部地震の液状化痕跡
-> 昼食 -> 胆振東部地震の被災地にて献花 -> 古地震崩壊堆積物 -> 胆振東部地震による
大規模深層崩壊地 -> 16:30 千歳空港解散

参加費：6,000 円（昼食・保険含）

定員：30 名程度

- ・参加申し込みは7月31日(土)まで。申込先は7. 研究会巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。
- ・保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。
- ・巡検の参加受付は、会員及び研究発表会参加者を優先します。

7. 研究会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先

◇Web フォームの場合：<https://forms.gle/uFMXYc2xqTdvemPk6>

※巡検のお申込をされた方は、保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）を、後日こちらからお伺いいたします。

◇電子メールの場合：rekishi2021@histeq.jp

第 38 回歴史地震研究会行事委員会

西村裕一（委員長）、盆野行輝、室谷智子、小松原琢、大邑潤三、高清水康博

※巡検のお申込をされる方は、保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

◇手紙の場合

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学 地震研究所 1-601

歴史地震研究会行事委員会 大邑潤三 宛

※巡検のお申込をされる方は、保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

8. その他

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、集会等には様々な制約があります。今後感染状況の変化によっては、プログラムの一部又は全部（講演会、巡検を含む）を中止する場合がありますので、予めご了承ください。

なお、上記 7. までの参加お申込みの後、状況により急遽キャンセルをご希望の場合は、前日までキャンセルを受け付けます。7. の電子メールによりご一報ください。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、以下についてご理解、ご協力をお願いいたします。

- ・当日は、会場へのご入場前に検温を実施させていただきます。体温が 37.5 度を超える場合、参加をお断りする場合があります。
- ・大会中、参加者の皆さんにはマスクの着用をお願いします。各自でマスクをご持参ください。
- ・大会の情報はホームページ上で随時更新いたします。

<https://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

以上

第 38 回歴史地震研究会（苫小牧大会）プログラム

9月2日（木）

研究発表会（第1日） 受付 13時00分～

口頭発表セッションⅠ 歴史地震全般・関東地方の地震と諸現象（1） 13：30～14：45

O-01 木戸崇之

災害アーカイブの可能性と継続への障壁

O-02 山中佳子・宇佐美龍夫

歴史地震総表のWEB検索システムの構築

O-03 中垣達也・谷岡勇市郎

1929年 Grand Banks 海底地すべり津波の波源解析

O-04 吉岡誠也

安政江戸地震前後の水戸の地震活動

O-05 武村雅之

関東大震災と東京一寺院移転の実態と現状

休憩<15分>

口頭発表セッションⅡ 歴史地震全般・関東地方の地震と諸現象（2） 15：00～16：15

O-06 室谷智子

国立科学博物館が所蔵する関東大震災の油絵・写真

O-07 阪本真由美

関東大震災における外国人の広域避難について

O-08 榎本祐嗣・山辺典昭・杉浦繁貴・近藤 斎

大正関東大地震における同時多発出火原因についての一考察

O-09 服部健太郎

1923年関東地震による伊豆大島の被害を記した資料

O-10 中臺裕美・谷岡勇市郎

1923年大正関東地震の津波波源解析

休憩<15分>

ポスターセッション コアタイム 16：30～17：30

9月3日(金)

研究発表会(第2日) 受付9時00分～

口頭発表セッションⅢ 西日本・北陸の地震と諸現象(1) 9:15～10:15

- O-11 松崎伸一・平井義人・日名子健二
1596年豊後地震における臼杵の津波高
- O-12 松浦律子・中村 操
日向灘周辺に発生した近世以降の被害地震
- O-13 水野 嶺・榎原雅治・吉岡誠也
天保期に西日本の広範囲で感知された地震について
- O-14 西山昭仁・原田智也
14世紀前期の京都における地震活動の検討

休憩<15分>

口頭発表セッションⅣ 西日本・北陸の地震と諸現象(2) 10:30～11:15

- O-15 濱野未来
地震史料中の慣用表現について—文禄伏見地震史料を中心に—
- O-16 鏡味洋史・水田敏彦
1927年北丹後地震直後の踏査報告の足跡をたどって
- O-17 石辺岳男・五島朋子・中村亮一・片桐昭彦・室谷智子・佐竹健治
気象災害であった可能性が高い1092年(寛治六年八月三日)の大波

休憩<15分>

ポスターセッション コアタイム 11:30～12:30

昼休み<1時間30分>

総会 14:00～15:00

休憩<15分>

口頭発表セッションⅤ 東南海・南海の地震と諸現象(1) 15:15～16:15

- O-18 大邑潤三・盆野行輝・加納靖之
新たな史料で判明した1854年安政東海地震における甲府盆地の被害と震度
- O-19 都司嘉宣
安政南海地震(1854)本震の4時間後に生じた津波を伴った余震について
- O-20 今井健太郎・楠本 聡・堀 高峰・高橋成実・古村孝志
1854年安政東海地震の波源断層モデル再評価
- O-21 谷岡勇市郎・宇野花蓮
1854年安政東海地震と1944年東南海地震の破壊域比較

休憩<15分>

口頭発表セッションVI 東南海・南海の地震と諸現象 (2) 16:30~17:30

- O-22 楠本 聡・今井健太郎・堀 高峰・山本阿子・菅原大助
高知県蟹ヶ池における津波堆積物の再現解析—宝永地震の事例と今後の課題—
- O-23 上村勇輔
愛媛県内における津波の被害・浸水域・高さと地名の関連
- O-24 中野祥房・稲住孝富・今井健太郎・堀 高峰
ヒアリングに基づく昭和東南海・南海地震による和歌山沿岸の津波被害
- O-25 都築充雄
三河地震 (1945) における三河地方の寺院被害状況の整理

9月4日 (土)

研究発表会 (第3日) 受付9時00分~

口頭発表セッションVII 東北・北海道の地震と諸現象 (1) 9:15~10:15

- O-26 佐々木淳
板碑造立への享徳地震の影響
- O-27 小田桐 (白石) 睦弥・小田島智恵・松橋香澄
岩手出身の先人による災害への対応について—後藤新平・山奈宗真を中心に—
- O-28 蝦名裕一
1454年享徳地震津波と1611年慶長奥州地震津波の比較分析
- O-29 松岡祐也
農林省水産局による昭和三陸地震津波の調査

休憩<15分>

口頭発表セッションVIII 東北・北海道の地震と諸現象 (2) 10:30~11:45

- O-30 水田敏彦・鏡味洋史
弘戸小学校編『男鹿地震記』に記された1939年男鹿地震の震災の状況と対応
- O-31 千葉 崇・西村裕一
秋田県沿岸の砂防林において認められた1983年日本海中部地震津波による津波堆積物
- O-32 平川一臣
日高・胆振・噴火湾沿岸の古津波
- O-33 高清水康博・西村裕一・岩城昂平・千葉 崇・石澤堯史
胆振東部太平洋岸における過去3000年の津波履歴
- O-34 林 豊
1780年ウルップ島の地震による日本への津波の影響

昼休み<2時間15分>

公開講演会 14:00～16:00 (開場 13:30)

北海道胆振東部地震から3年～歴史と地層から古地震をさぐる～

鏡味洋史 (北海道大学名誉教授)

災害史料からさぐる北海道の歴史地震

乾 哲也 (厚真町教育委員会学芸員)

考古遺跡に見られるアイヌ文化期の地震痕跡

西村裕一 (北海道大学准教授)

胆振地方太平洋岸の津波痕跡と海溝型地震の履歴

ポスター発表

P-01 石瀬素子・中村亮一・村岸 純・酒井慎一・宇佐美龍夫

1855年安政江戸地震の震度分布データベースの構築(2) - 宇佐美(1995)の詳細震度分布図のデジタルアーカイブ

P-02 荒井賢一・篠田海遥

日記から読み解く埼玉県所沢市の1923年関東地震・1924年丹沢地震後の復旧

P-03 水野 嶺

年代記にみる中世後期における南九州の地震

P-04 平井 敬

大沢家本願寺関係文書に記された安政東海・南海地震

P-05 久永哲也・内田篤貴・小川典芳・佐々木哲朗・椋代大暉・武村雅之・都築充雄

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について(その3)

P-06 行谷佑一・今井健太郎

安政南海地震による高知県内の被害率と浸水深との関係

P-07 千葉 崇・西村裕一

北海道十勝沿岸域における過去1000年間の地殻変動の推定

P-08 高清水康博・西村裕一・岩城昂平・千葉 崇

勇払低地の17世紀津波堆積物の特徴

P-09 西村裕一・千葉 崇

胆振東部地震(2018年9月6日)に伴う噴砂丘と砂脈の形成と保存